

おおさか

2年生の家庭科「発達と保育」の授業で能勢町子育て支援センターと連携して行っている『わくわく教室』が、3月5日(土)の毎日新聞に掲載されました。

週刊ニュースがわかる



府立能勢高(能勢町上田尻、真鍋政明校長)は、家庭科の授業「発達と保育」の一環で、2年生が年間を通じて町内の幼児と触れ合いながら学ぶ「わくわく教室」を05年度から開いている。04年度に総合学科に改編し、連携型中高一貫教育を進め

◇41◇

る高校と、町の子育て支援センターが連携して始まった教室は、地域の人に生徒を身近に感じてもらう機会にもなっている。

だ。
浜早苗さん(41)は三

2月16日、家庭科実習室に集まった2、3歳の幼児とその保護者、生徒計約40人が、台紙に色鉛筆で絵を描いたり、折り紙を切り張りして遊んだ。春から月1回のペースで農場散策、おやつづくり、子育て討論会などを続けてきたが、この日が今年度の最終回だ。

わくわく教室



幼児と触れ合いながら学ぶ生徒ら
—能勢町上田尻の府立能勢高で

幼児と遊んで学ぶ

府立能勢高校

女の三華ちゃん(3)と参加。上2人もわくわく教室「卒業生」で、「子どもも毎回来しみにしていた。年の離れた子と生徒が交流するのは、互にとっていい経験になったと思ふ」と振り返った。長男権一(1)と楽しんでいたのは、6年間指導を続ける山川真砂(30)だ。1月から3カ月間の育児休暇中、「ちょっと見ない間に成長したな」と感じている。

心した様子。「子どもを守り、子どもの気持ちに分かる大人になってほしい」と期待を込めた。

【堀江拓哉】

生徒たちは子どもたちと作品を仕上げ、披露しあい、感謝の言葉を述べて見送った。石田麻莉さん(17)は「子どもたちは一人一人個性が違ったし、成長の早さも実感した。最初はどう声をかけていいかわからなかったけど、遊びを通じて自然に接することができるようになった」と話していた。